

佳作

私のエネルギーの源

福島県いわき市立平第二中学校

1年 遠藤 笑琉

私のエネルギーの源は、バレーボールです。なぜなら、バレーボールが大好きだからです。私がバレーボールと出会ったのは、小学5年生から始めた、バレーボールスポーツ少年団です。スポーツ少年団に入り、最初はレシーブもうまく上がらず、サーブもネットにかかってしまう状態でした。スパイクもステップがうまくできず、空振りをしてしまったりと、できないことばかりで仲間にめいわくをかけてしまうことが多くありました。しかし、できないことが多くても、とにかくバレーボールが楽しくて大好きでした。それから、監督やコーチのご指導の下、レシーブはしっかりひざを使っていねいに上げることができるようになり、また、トスなどもうまく上げられるようになりました。さらにサーブもコースをねらって打つことができるようになり、スパイクも身長を生かして強いスパイクを打つことができるようになりました。それは、自分の努力も上達につながったけれど、監督やコーチ、チームメイトのおかげでもあると感じています。毎日、あの先輩のようなスパイクを打ちたい、あんなふうにプレーをしたいと思い、練習を頑張りました。

私たちの代になって新チームの練習が始まりました。ユニホームをもらい、新チームでも頑張っていこうと思いました。新人戦などさまざまな大会に出場し、ある大会では左手の親指を骨折してしまうアクシデントもありました。骨折した時は、バレーボールができなかったので、使える右手で壁打ちをしたり、片手でレシーブの練習をしたりしました。早くみんなと同じような練習やプレーをしたい、という悔しい思いやあせりもあり、今の自分にできることをしました。

他の大会では、私の今までの努力を認めてもらい、優秀選手賞をもらうことができ、とてもうれしかったです。

しかし、あるとき、コースをねらって力強く打っていたスパイクがとつぜんネットにかかったり、アウトになってしまったりというミスが多くなってしまったことがありました。私は、アタッカーだったので、スパイクのミスが多くなり、あせっていました。もがけばもがくほど、できない自分にイライラもしました。そんなときにコーチから、「そんなことは誰にでもあること、あんまり深く考えるな。」と言われました。その言葉を聞いて、私だけじゃないんだ、とすっと力が抜けたのを覚えています。それから不思議と力が抜けて、イメー

じ通りにプレーができるようになりました。夢中で練習することは大切なことだけれど、自分の体の調子に合わせて練習することも大切なんだと学びました。

バレーボールから学んだことは、団体競技だからこそ大切にすべきことがたくさんあるということです。バレーボールは、一人ではできないので、チームワークを大切にすること、声をかけ合ったり、はげまし合ったりしながら、みんなで一つの目標に向かって団結力を高めていくことがとても大切なことだと思いました。だから、時にはぶつかることもあったけれど、支え合いながら頑張ってきました。

卒団するときは、今まで一緒に戦ってきた仲間との別れはとてもさびしかったけれど、達成感でいっぱいでした。

今でも、部活の他にバレーボールのクラブチームでの練習にも参加しています。ほとんどが先輩なので、すばらしいプレーをたくさん見て、刺激を受けています。自分よりも上手な先輩たちとの練習もとても楽しく感じています。

部活では、新入部員が11名入り、一緒に頑張っています。これからリーグ戦や、新人戦などたくさんの試合があるので、みんなで切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思っています。

私は、体力をつけるために、走ることも始めました。バレーボールに出会って、今まで、いろいろな経験や体験をしてきました。もっともっと上手になりたいと、家での自主練習も取り入れています。バレーボールの動画もよく見ます。バレーボールのことを考えるだけで、わくわくし、体がうずうずしてきて今すぐバレーボールをやりたいという気持ちになります。私はバレーボールが大好きです。

これから、部活でもクラブチームでも仲間と協力しながら自分の技術向上を目指して頑張っていきます。

今の私のエネルギーの源、それはまちがいなくバレーボールです。